

駒場友の会

会報第19号

新入生歓迎特別講演会

「なんで、私が東大に!?!」というのによく知られた予備校のコピーですが、このコピーを拝借したユニークな講演会が四月二〇日(金)に新しい教室棟21KOMCEE地下一階レクチャーホールで開催されました。駒場友の会主催「新入生歓迎特別講演会」です。



今回の担当はトム・ガリー准教授。先生の専門は英語教育で、ALESS (Active Learning of English for Science Students) など、駒場発の新しい教育プログラムの開発に力を注いでられました。

「なんで、私が東大に!?!」というタイトルは、新入生に新しい学習環境での目標設定について考えてもらうという講演会の趣旨を表現しています。この講演会は、昨今注目さ

れている討議形式で行われました。「東大には教養課程が何故あるのか?」「学問分野の研究者が授業を教えるのは何故か?」など、四つのテーマを参加者がグループに分かれて順次討議し、それを発表しあう形で進められました。

新入生一〇〇名余りを中心に、参加された新入生のご父母や教員・在校生もグループごとの討議に参加し、当たり前のようで当たり前でない設問にそれぞれ立場から答えを見つけようとして頭を悩ませました。

熱心な意見交換で会場は大いに盛り上がり、新入生から、「大学では講義を聞く以上のことを常に求められるので不安だったが、この講演会に参加して少し自信がついた」などの感想が寄せられました。

新入生父母と学部長との懇談会

駒場友の会には、毎年四月五月に新入生のご父母が多数入会されます。今年には七〇〇名ほどにご入会いただき、ありがとうございます。新しい会友の方々の駒場キャンパスにお招きして、毎年、「学部長との懇談会」を開催して



一号館は1933年に建設された旧制第一高等学校の本館で、それ以来、時計台は駒場キャンパスのシンボルとして親しまれています。一号館の3階から細い螺旋階段を登っていくと時計の機械室があり、さらにその上の屋上(写真)に上がることができます。普段は閉鎖されていますが、特別な機会に入場が認められます。

います。今年の開催は五月一九日(土)。

学部長の講演(九〇〇番教室)、キャンパスツアー、懇親会(生協食堂)の三部構成となっています。キャンパスツアーでは、約十名に分かれた参加者を三〇名ほどの教員が引率して、図書館、講義棟、課外活動施設、食堂、購買部、博物館、教員研究室等にご案内しました。左上写真はキャンパス東端の池を回るツアーの様子、右は一号館時計台上での集合写真です。

「オルガン演奏に始まり、先生方のお心尽くしに感銘いたしました。九〇〇番教室での司会の先生の毅然とした態度に息子たちも厳しく指導していただいているのだと感心し、東京大学に入学できてよかったと改めて感じました。長谷川学部長はわかりやすく話して下さり、わが子も是非タフな東大生に成長してもらいたいと思えました」

第十二回演奏会

「大樹に囲まれた広い敷地と歴史のある建造物と、最近の設備も兼ね備えた素晴らしい環境に驚きました」などの感想を頂戴しました。

当日の写真など詳しい様子は以下のホームページをご覧ください。ご参加いただいた方、ご参加いただけなかった方に、御礼とお詫びを申し上げます。

<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/lovekomaba>

駒場友の会では年二回のペースで音楽会を開催しています。今年の上半期は、三月一〇日(土)に21KOMCEE地下一階MMホールに、ベネズエラの「アオンダ」をお招きして演奏会を開催しました。共催は教養学部地域文化研究学科ラテンアメリカ分科、後援はベネズエラ・ボリバル共和国大使館ほか。企画・進行は石橋純准教授。

「アオンダ」はベネズエラの最先端の音楽アンサンブルで、南米伝統音楽をジャズや現代ポップス・音楽と融合させる新しいジャンルを開拓しています。クラトロ(四弦ギター)とベース、マラ



カス、ハープの力強い演奏と歌から構成されています。

ベネズエラは昨年が独立二〇〇周年で、日本でも様々な記念行事が開催され、この演奏会もそれにちなむものです。また、日本でただ一人のベネズエラハープのプロ演奏者である吉澤陽子さんは、岩手県宮古市のご出身で、被災地復興支援のライブプログラムを日本全国で続けています。

当日は駒場のベネズエラ音楽学生合奏団 Estudiantina Komaba が前座演奏ならびにスタッフとして参加。手取り感いっぱい感動的な演奏会となりました。こうした特色ある演奏会を今後も続けていきたいと思っておりますので、どうぞご期待ください。

第九回総会報告

第九回総会を、五月二十六日(土)十六時四十分より、駒場コミュニティセンタープラザ北館二階多目的教室で開催しました。

毛利秀雄会長の議事進行により、長谷川壽一教養学部長の挨拶で始まり、一高同窓会、東京高校同窓会から来賓祝辞を頂きました。審議は以下の(一)～(五)の議案について行われました。

- (一)二〇一一年度事業報告
- 山本泰事務局長より報告がありました。
- ①懇談会・講演会・演奏会などの開催主催行事は以下の通り。新人生歓迎特別講演会(四月二二日)／新入生父母と学部長との懇談会(五月二二日)／第十

一回演奏会…チェロとピアノ(五月二八日)／味覚のアトリエ@駒場(十月二八日)／駒場の樹木をめぐる講演会とイベント、時計台公開…ホームカミングデー行事(十月二九日)／第十二回演奏会…ベネズエラ音楽演奏会(三月一日)／ロコモ体操教室の定期開催…渡會公治先生の指導による(毎月二回)

②会報の発行、ホームページの拡充
会報は十七号を九月に、十八号を三月に発行

③「学生のための寄付」とカレンダーの製作販売

五月と年度末に「学生のための寄付」を実施し、それぞれ三、二一九、〇三五円、一、二四〇、〇〇〇円(計四、四五九、〇三五円)のご協力をいただいた。お預かりした寄付は、主として震災関連の支出(本学の被災学生の支援や被災地救済活動の支援)に充てた。東京大学への寄付(一、二〇七、二四五円)、教養学部への寄付(二、〇〇〇、〇〇〇円)など／ユータスクン学事カレンダー二〇一二年度版の製作を行い、好評を得た(壁掛け版と卓上版)

④会員・会友数(三月末日)
終身会員九八名、通常会員五〇〇名、会友二、三五六名。一高同窓会一八六名、東高同窓会一〇四名。計三、二四四名(前年度末より一、〇二三名増)

(二)二〇一一年度決算
事務局長より別表のとおり決算の報告が行われ、関谷孝監事よりその内容が適切である旨、監査報告がありました。

(三)二〇一二年度事業計画

事務局長より説明がありました。

①懇談会・講演会・演奏会などの開催
新人生歓迎特別講演会(四月二〇日)／新入生父母と学部長との懇談会(五月一九日)／第十三回演奏会…卒業生によるギター演奏会(十月二〇日)／駒場の樹木をめぐる講演会とイベント、時計台公開…ホームカミングデー行事(十月二〇日)／味覚のアトリエ@駒場(十月末)／ロコモ体操教室の定期開催(毎月二回)…美立健康協会との連携による／一高同窓会事務の円滑な引継ぎ

②会報の発行
十九号を九月に、二〇号を三月に発行

(四)二〇一二年度予算
事務局長より別表のとおり説明がありました。

収入の部

	2011年度予算	2011年度実績	2012年度予算
1 会費収入	8,800,000	9,080,000	8,600,000
11 通常会員会費	2,000,000	1,940,000	2,000,000
12 会友会費	5,700,000	6,780,000	5,700,000
13 終身会費	900,000	340,000	900,000
2 寄付収入	4,100,000	4,617,346	3,150,000
21 学生のための寄付		4,459,035	3,000,000
22 その他		158,311	150,000
3 雑収入	6,000	5,585	5,585
31 預金利息	4,000	2,565	2,565
32 その他	2,000	3,000	3,000
小計	12,706,000	13,682,911	11,755,585
前年度繰越金	8,447,770	8,447,770	8,693,427
合計	21,153,770	22,130,681	20,448,992

支出の部

	2011年度予算	2011年度実績	2012年度予算
1 印刷費	800,000	829,491	890,000
11 会報・案内等の印刷費	500,000	616,916	590,000
12 封筒・便箋等の印刷費	300,000	212,575	300,000
2 通信費	1,480,000	1,474,135	1,390,000
21 郵送料	1,400,000	1,349,830	1,300,000
22 電話使用料	90,000	124,305	90,000
3 事務経費	480,000	652,325	610,000
31 事務用品費	100,000	219,199	200,000
32 ゼロックス使用料	180,000	189,213	190,000
33 インターネット接続料	0	0	0
34 会費等振込料金負担	200,000	243,913	220,000
4 人件費	2,100,000	1,829,388	2,180,000
41 事務局スタッフ	1,800,000	1,679,388	1,950,000
42 臨時	300,000	150,000	230,000
5 運営費	1,203,500	1,557,196	1,463,500
51 事務室借料	233,500	233,500	233,500
52 光熱水料	70,000	65,439	70,000
53 会員証作成費	700,000	813,572	750,000
54 入会勧誘活動費	-	207,575	210,000
55 庶務費	200,000	237,110	200,000
6 事業費	2,000,000	2,748,737	2,100,000
7 寄付	4,800,000	4,345,982	3,100,000
8 予備費	32,500	-	22,065
小計	12,706,000	13,437,254	11,755,585
次年度繰越金	8,447,770	8,693,427	8,693,427
合計	21,153,770	22,130,681	20,448,992

(五)役員と監事の改選
会長…小林寛道 副会長…竹田晃、遠山敦子 理事…浅野攝郎、江川雅子、風間勝昭、木畑洋一、小島憲道、瀧田佳子、坪井俊、蓮實重彦、長谷川壽一、松本健、監事…関谷孝、山影進

以上の議案はすべて提案の通り承認されました。詳細は、駒場友の会のホームページをご参照ください。

駒場キャンパスでの多彩な音楽活動の振興を目的とする「駒場音楽振興基金」の設置が今回の理事会で、総会で認められました。

幅広い皆様からの寄付を原資として、駒場発の音楽活動の振興に努めてまいります。どうぞよろしくご協力ください。

北海道演習林を訪ねて

市村 温司

東京大学農学部附属北海道演習林長の芝野博文先生と初めてお会いしたのは、一昨年十一月のホームカミングデー行事「駒場の樹木を楽しむ会」の時でした。このときと昨年の二度、先生の講演を聞き、私は富良野の森にすっかり魅せられてしまいました。芝野先生にその旨をお話ししたところ、今年六月に演習林に皆さんをお迎えするイベントを開催する予定と伺い、それに応募し、ようやく念願かなって、この度、富良野の森を訪ねました。



このイベントは北海道演習林の学内公開プログラムで、東京大学の教職員と家族が対象ですが、駒場友の会の会員会友も参加に含めていただいていたと聞いています。講習会は、六月七日八日の一泊二日、広大な面積を有する奥地林の見学、カラマツの植樹体験、富良野の自然にちなむワークショップなど盛り沢山な内容でした。

体験は小生にとつて十年の体験に匹敵するように思われました。奥地林では、倒木して横倒しになった樹幹が苔むしてその上に樹上から落ちた種子から芽が出て十二センチほどの三本の苗木になっているところに出あわせました。樹木が倒れたのは何千年か前のことだろうという説明がありました。この古い樹幹の上に落ちた種は何億個、何十億個になることでしょう。なんとという悠久。原始の森が何千年も何万年もかかって形成されていくということ。もうこれだけで十分に感動的でした。

演習林では、「林分施業法」という独自の方法で天然林を管理しているそうです。一斉に伐採し植林するという生態系破壊的な林業ではなく、樹木の密度や種類・大きさ、天然更新の良否などいくつかの森林タイプ(林分)に区分し、伐採や造林は林分の状態に応じて行います。再生可能な自然資源の利用と生態的機能の保全とを調和させる森林管理の方法として、国内のみならず海外でも高い評価を受けています。針葉樹ではトドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ、広葉樹ではダケカンバ、シナノキ、イタヤカエデ、ウダイカンバ、ミズナラ、ニレ類、ハリギリなどが標高100mから1,459mまでの広い範囲に分布しており、こうした植生の多様性にも目を奪われました。この広大な、山手線の三・五倍ほどある空間が、まことに美しく整備されていることに驚きを禁じ得ませんでした。



さすがに東京大学とついつい言ってしまうような経験をさせていただき、北海道演習林の皆さまに心から感謝を申し上げる次第です。来年以降も同じようなイベントが開催されるということですので、駒場友の会の皆様もぜひ一度お出かけになりますようにお勧めいたします。

国際交流研修ツアー

君 康道

七月十三日(金)〜十七日(火)、学生間の国際交流促進の試みとして「伊勢・熊野・高野山見学実習」が実施されました。これは学生ではなかなか訪れる機会の少ない紀伊半島の著名な三つの聖域を四泊五日で貸切バスで巡り、日本の信仰や文化について共に考えようという試みで、教養学部のアイコム(AIKOM: Abroad in Komaba)プログラムの運営委員会が担当しました。全

七月十三日午後十一時、バスは駒場キャンパスを出発。一路西へとひた走り、まずは第一の目的地である熊野へ。熊野の「クマ」は「奥まった処」という意味があるとされ、高速交通網の発達した現代においてさえその地へ辿り着くには相当な時間を要します。

狭いバスの中で一夜を過ごした一行は翌朝まずは「熊野三山」の一、熊野速玉大社を参詣。次に向かった熊野那智大社では今回のツアーの目玉の一つである熊野那智大社例大祭、通称「那智の火祭り」を見学。豪壮な那智の滝と参道を行き交う大松明に学生たちも圧倒されていました。そしてその夜は洞窟の中の温泉で有名な那智勝浦のホテルに宿をとり、温泉と土地の名物を満喫しながら前夜の寝不足もどこへやら、学生たちは夜遅くまで親交を深めていたようです。

翌十五日、バスは熊野川沿いを北上して「熊野三山」の中心地熊野本宮大社を参詣したのち、更に紀伊山地を北上して第二の目的地である高野山へ。弘法大師空海により開創された高野山はまさに「山岳宗教都市」。熊野から更に山また山の中を進んで辿り着いた所で、高野山での宿はいわゆる「宿坊」。厳格とまではいかずとも十分厳かな雰囲気、供された精進料理、そして朝のお勤めなど、ここでの一夜は全ての学生にとって大変貴重な経験となったことは間違いありません。

十六日は高野山見学の後、バスは進路を東へ、最後の目的地である伊勢に

向かいました。伊勢から程近い鳥羽に宿をとり、山海の幸で英気を養って翌十七日、二見浦、そして伊勢神宮(外宮・内宮)を参詣しました(写真は内宮にて)。

伊勢神宮は来年、二十一年に一度の「式年遷宮」が行われる年にあたり、神域内ではそのための準備が着々と進められています。広大な神域と華美を排した社殿のつくり、そして遷宮という伝統行事。熊野とも高野山とも全く異なる趣に学生たちの興味も尽きることはなく、夕方、名残りを惜しみつつバスは伊勢を後にして東京へ。そして午後十時、ほぼ予定通りに駒場キャンパスへ帰着しました。

四泊五日という長丁場、紀伊半島をほぼ一周する強行日程、更には全行程バスでの移動と、今回の見学実習は十分体力のある学生たちにとっても相当ハードなものでした。しかしそれ以上に学生たちが受けた刺激は大きかったようです。

引率した教員三名も参加して、帰京翌日に開催された総括ミーティングでは、大変興味深い意見・感想が聞かれました。「学生間の国際交流」という趣旨で皆が多くのことを学んだ様子が窺われました。

今回この見学実習を実施するにあたっては、駒場友の会より多大なるご支援を頂きました。実習のご報告と併せ、この場をお借りしまして心より厚く御礼申し上げます。
(教養学部講師、アイコムプログラム)

会長に就任して

小林 寛道

駒場友の会が発足して、早いもので八年が経過しました。発足当時、駒場友の会をどのような組織にするかについて、種々意見がありました。いわゆる同窓会ではなく、駒場にかかわる様々な人たちが交流できるオープンな会にしようということになりました。駒場友の会は、旧制第一高等学校、東京高校の卒業生、駒場キャンパスで学んだ人、教職員であった人をはじめ、現役学生、現任教職員、学生の父母、近隣の方々を含めて、「駒場キャンパス」に所縁がある方々をすべて含む会として発展しています。

駒場友の会の会長は、最初の四年間は本間長世先生が務められました。本間先生は教養学部の顔と言える存在であり、一九八九年の総長選挙では、三回目の最終投票で有馬朗人先生と本間先生が同票となり、くじ引きで有馬先生が総長に選出されました。私も本郷の投票所で投票を行いました。先生の人望は素晴らしいものだと思えました。



有馬総長の時代には、まだ駒場と本郷との格差が大きく、教育研究環境も改善しなければならぬ課題が多くありました。困難な課題の一つが駒場寮の存

在でした。駒場キャンパス敷地の約三分の一を占める駒場寮を廃止し、新しい国際学生宿舎を三鷹に建設するという決定がなされました。

駒場友の会の二代目会長は、毛利秀雄先生です。毛利先生は、一九八七年から二年間教養学部長を務められ、いろいろな先生方の意見の取りまとめに苦勞しておられた様子を拝見しておりました。教授会の雰囲気は荒々しく、議論百出で、なかなかまとまりません。文部省(当時)の教養課程見直しの方針に抗して、東大は教養教育の重要性を強く主張し、それを守り充実させようとしてきたからです。

かつての駒場寮の跡地には、今は駒場コミュニケーションプラザという学生の課外活動施設(音楽やスポーツなど)と厚生施設が整えられ、一年を通して朝から夕刻まで多くの学生で賑わい、駒場は新しい教養教育のキャンパスとして評価されています。

本間先生、毛利先生と続く駒場友の会の会長をこの度お引き受けすることには大変に躊躇しました。これまでの大学への私の貢献といえ、三鷹国際学生宿舎特別委員会委員長として、原田学部長に始まる歴代六学部長から駒場寮廃寮にかかわる特別任務を背負われ、十年間取り組んで、その任務を完了したことが挙げられるかと思えます。専門は体育(スポーツ科学)で、駒場の体育・運動施設の充実に力を尽くしてきたといえるかもしれません。「なぜ小林が今度の会長なのか」とい

爽やかな風に包まれてゆったりとくつろぐことのできる

フランス料理 ルヴェ ソン ヴェール 駒場

駒場友の会の皆様がお食事の際に注文なされたコーヒーは、お支払いの際に会員証・会友証をご提示下さいますと無料になります。

営業時間 11:00 ~ 14:30, 17:00 ~ 21:00

Tel: 03-5790-5931 / Fax: 03-5790-1902

駒場ファカルティハウス内

う疑問を持たれる向きがあるかもしれませんが、その場合には「駒場友の会は、駒場を愛する人たちの会」なのだから、「駒場を愛する気持ちを持っていない人ならだれが会長になってもよい」という流れを作る第一号と考えていただく、なんとなく納得してもらえませんか。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(東京大学名誉教授、スポーツ科学)

駒場友の会会報 第19号
2012年9月15日発行
駒場友の会
〒153-8902
目黒区駒場3-8-1 東京大学
駒場ファカルティハウス内
電話 03-3467-3536
FAX 03-3465-3334
郵便振替口座
00170-3-481649
メール
info-tomo@adm.c.u-tokyo.ac.jp
ホームページ
http://www.c.u-tokyo.ac.jp/
ilovekomaba/
デザイン・印刷 株式会社及文社印刷
http://www.sobun-printing.co.jp

小林新会長のプロフィール

認知動作型トレーニングマシンの開発およびトレーニングシステムの構築が専門。本学教育学部体育学健康教育学科1968年卒業。教育学博士。大学院総合文化研究科教授(2006年3月まで)。現在は大学院新領域創成科学研究科特任教授。日本体育学会会長、日本発育発達学会会長等を歴任。